

主 催
財団法人 日本ビフィズス菌センター

第17回 腸内細菌学会 発表演題募集・プログラム

メインテーマ



腸内菌の生態と疾病・健康を考える
—腸内細菌学の学術研究の発展を目指して—



開催日 平成25年6月13日(木)・14日(金)

会 場 北里大学薬学部
「コンベンションホール」
東京都港区白金 5-9-1

大会長 神谷 茂 (杏林大学教授)

事前参加費 会員 6,000 円 一般 7,000 円 学生 1,500 円
当日参加費 会員 8,000 円 一般 9,000 円 学生 2,000 円
(予稿集会員無料配布、当日別売 1,000 円)

腸内細菌学会ホームページ <http://bifidus-fund.jp/>

一般講演 A・B 申込要領

平成25年2月1日(金)まで

本年度は、口頭発表時間の異なる **一般演題 A** と **一般演題 B** の2種類の募集となります。

常在・病態菌叢およびその生態・分類・意義・腸管免疫・食品微生物・プロバイオティクス・プレバイオティクスなどに関する研究の発表を下記の要項に従ってお申し込みください（メインテーマと関連がなくても結構です）。

本大会の一般講演は、大会第1日目午前中のセッションでの講演（7～10分程度の口頭発表〔質疑応答含む〕）【一般講演 A】と、大会第2日目の午前中のセッションでの講演（15分程度の口頭発表〔質疑応答含む〕）の【一般講演 B】の2つの形式といたします。この内「一般講演 A」については若手研究者による発表や、シーズあるいは萌芽的な研究の発表を歓迎いたします。なお「一般講演 A」での講演の中から本センター選考委員によって優秀な発表と評価された2名の講演者に対して「優秀発表賞」（表彰状および副賞）が贈られます。

（財）日本ビフィズス菌センターは特許庁による特許第30条第1項の規程にもとづく学術団体として指定を受けています。

① **申込方法** ・抄録用原稿を E-Mail にてお送りください。メール本文には「一般講演 A での発表希望」なのか「一般講演 B での発表希望」なのかを必ず明記してください。

② 作成要領

❗ 要旨および発表スライドには、会社名、製品名の使用は避け（自社製品は除く）、成分名等にて記載ください。

【一般演題 A】 ・40歳未満の方を対象とします。

- ・抄録用原稿は MS-Word もしくはテキストで作成してください。
- ・用紙の大きさは A4 1枚とし、上部に演題名・英文タイトル・演者（○をつける）・共同研究者の氏名および所属を明記してください。
- ・本文の長さは和文 1,000 文字、英文 550 ワード内とし、「目的、方法、結果、考察」の順で記入してください。
- ・締切：**平成 25 年 2 月 1 日（金）必着**にて事務局までお送りください。

タイトル
英文 Title

○腸内太郎¹，腸内花子²

¹腸内大学研究所，²株式会社 腸内細菌

【目的】…

【方法】…

【結果】…

【考察】…

- 【一般演題 B】 ・抄録用原稿は MS-Word もしくはテキストで作成してください。
- ・用紙の大きさは A4 1 枚とし、上部に演題名・英文タイトル・演者 (○をつける) ・共同研究者の氏名および所属を明記してください。
 - ・本文の長さは和文 1,000 文字、英文 550 ワード内とし、「目的、方法、結果、考察」の順で記入してください。
 - ・締切：**平成 25 年 2 月 1 日 (金) 必着** にて下記事務局までお送りください。

③ 講演時間

【一般講演 A】 6 月 13 日 (木)

大会第 1 日目午前中のセッションでの講演 (7 ~ 10 分程度の口頭発表 [質疑応答含む])
※同日に行われる懇親会にて、優秀発表賞の表彰を行います。

【一般講演 B】 6 月 14 日 (金)

大会第 2 日目午前中のセッションでの講演 (15 分程度の口頭発表 [質疑応答含む]) となります。

※講演時間は変更になる可能性がございますのでご了承ください。

④ 申込先および事務連絡先

財団法人 日本ビフィズス菌センター事務局
〒 170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-24-12
TEL 03-5319-2669 FAX 03-5978-4068
E-Mail アドレス jbf@ipecc-pub.co.jp
ホームページ <http://bifidus-fund.jp/>

⑤ その他

ご発表方法や時間などは採択後に発表者にご連絡します。

なお、講演の採択は学術委員会の審査を経て、大会長が判断いたしますのでご了承ください。

投稿のお願い

本学会でのご発表の内容を和文誌『腸内細菌学雑誌』または日本ビフィズス菌センター・日本乳酸菌学会・日本食品免疫学会の合同欧文誌『Bioscience of Microbiota, Food and Health』へご投稿ください。原稿の種類は、原著・総説・ノート何れでも構いません。



学会スケジュール (予定)

第1日 6月13日(木)

9:30 ~ 9:40 **開会の挨拶**

大会長 神谷 茂 (杏林大学 教授)

9:40 ~ 12:00 **一般講演 A 発表** (12:00 ~ 13:00 昼食休憩)

13:00 ~ 14:00 **海外特別講演**

George T MacFarlane (Professor, University of Dundee, UK)

「Ecology of intestinal microorganisms in health and disease」

Intestinal microorganisms play a major role in human physiology. Until recently, most work has focused on the large bowel, however, mucosal surfaces are heavily colonised throughout the digestive tract, although the species composition and microbial load is much lower in the upper gut. Despite this, dysbiosis associated with upper gut colonisation can cause major health problems. This presentation will focus on the role of colonic bacteria in colon cancer, and inflammatory bowel diseases (ulcerative colitis, Crohn's disease), as well as conditions in the upper gut, such as bacterial overgrowth in patients receiving parenteral nutrition, and Barrett's oesophagus and oesophageal adenocarcinoma.

14:00 ~ 15:00 **特別講演**

中村信一 (金沢大学 学長)

「ディフィシル菌の疫学」

周知のようにディフィシル菌は院内感染下痢症の最大原因菌である。本講演では新生児・小児・健常成人・老人施設・環境におけるディフィシル菌の存在について、選択培地を用いて検討した我々の成績を中心に述べる。

15:10 ~ 17:40 **シンポジウム1 『医学、獣医学、農水産学領域におけるプロバイオティクス／プレバイオティクス／バイオジェニクス』**

① 牛田一成 (京都府立大学大学院 生命環境科学研究科長)

「畜産領域におけるプロバイオティクス」

家畜用のプロバイオティクスの効能には、ヒト用の商品とくらべて、感染症予防の観点が強く要求される。とくに、飼料添加用の抗菌剤いわゆる AGP の使用が制限されるようになってから、この傾向は明らかとなっている。農場に浸潤した感染症に対する効果がないと、農家は購入する意欲を持たない。また、それぞれ異なる解剖生理をしめす多様な家畜に、同じストラテジーで菌株をスクリーニングすることの妥当性も議論したい。

② 吉水 守 (北海道大学 教授)

「水産学領域におけるプロバイオティクスの応用
—魚介類の腸内細菌を用いたウイルス病の予防」

魚介類の腸内フローラもその全容解明と働きが徐々に解明され、成長促進や疾病予防に関与するプロバイオティック微生物の発見のみならず、食の安全にまでリンクした研究が展開できるようになってきた。本講演では水産分野でのプロバイオティクス研究の現状と将来展望を紹介すると共に抗ウイルス活性を有する腸内細菌を用いた疾病予防について紹介したい。

③ 下条直樹 (千葉大学 教授)

「アレルギー疾患とプロ／プレバイオティクス」

この10年間でプロバイオティクスのアレルギー発症、悪化の予防に関する臨床研究が多く発表されるようになった。最近のメタ解析では妊娠中／出生後のプロバイオティクス摂取は児のアトピー性皮膚炎発症の予防効果があるとされている。一方、既に発症しているアトピー性皮膚炎にはプロバイオティクスの効果は認められていない。プレバイオティクスについては研究報告が少ないが効果が期待されている。プロ／プレバイオティクスとも、年長児／成人のアレルギー疾患の治療・予防効果についてはまだ十分な研究が行われておらず今後の臨床研究が望まれる。

④ 岡健太郎 (ミヤリサン製薬 (株) 主幹研究員)

「*Clostridium difficile* 腸炎とプロバイオティクス」

Clostridium difficile は一部の健常者の腸内に定着する常在菌の1種であるが、抗菌薬の投与により正常腸内細菌叢が攪乱されると異常増殖して毒素を産生し、下痢や偽膜性腸炎などを引き起こすことが知られている。治療には原因抗菌薬の中止とバンコマイシンまたはメトロニダゾールの投与が有効であるが、再発例も多い。本シンポジウムでは、主に抗菌薬の補助療法として使用されるプロバイオティクスについて、その有効性と根拠を紹介する。

⑤ 大草敏史 (慈恵医科大学 教授)

「炎症性腸疾患とプロバイオティクス」

炎症性腸疾患 (IBD) は、潰瘍性大腸炎とクローン病に大別される。IBDは、従来は自己免疫疾患と言われていたが、最近の研究の進歩により、その炎症は腸内細菌によって引き起こされていると考えられるようになり、治療法の1つとして、乳酸菌に代表されるプロバイオティクスの有用性が注目されてきた。本講演では、自験例も含めて、IBDに対するプロバイオティクス療法を概括する。

<総合ディスカッション (15分)>

18:15 ~ 19:45 **懇親会** (会場：八芳園)

皆様奮ってご参加ください。

第2日 6月14日(金)

9:30～12:00 一般演題B 発表

(12:00～13:00 昼食休憩)

13:00～13:10 日本ビフィズス菌センター研究奨励賞授賞式

13:10～14:00 受賞講演

14:10～16:40 シンポジウム2

『原因不明疾患と Normal Microbiota』

① 渡邊邦友 (岐阜大学 教授)

『自閉症 (Regressive autism) と腸内細菌』

生後18ヵ月頃までは正常に発達していたと思われる子供に発症してくる regressive autism (RA) という自閉症のサブタイプがある。RAの子の一親であった Bolte E が1998年に Autism and *Clostridium tetani* と題する論文を Medical Hypotheses 誌に発表した。そして腸内の Clostridia に着目した研究が始まることになる。

② 中島 淳 (横浜市立大学 教授)

『NASH と腸内フローラ』

肥満における脂肪肝では通常肝障害を起こさないようなごく微量のエンドトキシンに過剰に反応して慢性肝炎になる。この新知見は肥満者では腸内細菌由来のエンドトキシンへの過剰応答性により NASH が発生するこれまで知られていない病態メカニズムを示唆するのみならず、その他肥満による各種生活習慣病の根底をなす慢性炎症の発生にも関与している可能性があると考えられる。

③ 山下智也 (神戸大学 講師)

『腸内フローラへの介入と腸管免疫修飾による動脈硬化予防』

我々は、動脈硬化の抗炎症免疫療法を探索する中で、腸管からの免疫修飾により動脈硬化が予防できる可能性を示した。さらに最近では、腸内細菌叢とその免疫調節作用に注目して、「プロバイオティクスの抗動脈硬化作用」や「腸内細菌叢への介入による動脈硬化予防法の開発」などの研究を行っている。その研究の一部を紹介して、皆様と議論できる機会になればと考えています。

④ 齋藤 滋 (富山大学 教授)

「細菌性膣症と早産について」

膣内には *Lactobacillus* が優位であるため、膣内 pH は酸性となり、病原体の増殖を防いでいる。膣内細菌叢が乱れて *Lactobacillus* が減少し、*Gardnerella vaginalis*, 嫌気性菌、マイコプラズマ等が増殖した状態を細菌性膣症と呼び、早産のリスク因子となっている。妊娠 20 週までの細菌性膣症の治療は早産を減少することが示されている。また、最近の我々の成績では、早産症例の膣内細菌叢も変化していることがわかっている。

これらの成績を示して、皆様方からの御批判を仰ぎたい。

⑤ 落合邦康 (日本大学 教授)

「歯周病を誘因とする全身疾患」

歯周病や口腔細菌代謝産物が糖尿病などの全身性疾患や上咽頭がんの誘因となる可能性が報告されている。我々は、嫌気性歯周病原菌の産生する酪酸により潜伏感染 HIV が再活性化し AIDS 発症の可能性や関節リウマチ、炎症性腸疾患、口腔乾燥症や各種がんの発症に関わる Epstein-Barr virus の再活性化について報告する。微生物間相互作用における酪酸のエピジェネティック制御と病原性発現について検討を行ったので報告する。

<総合ディスカッション (15分)>

16:40 ~ 16:45 閉会の辞

交通アクセス・マップ

北里大学 白金キャンパス (薬学部校舎)

最寄り駅からの交通機関

- A 【渋谷駅】** 東口下車 都バス「田 87」系統 田町駅行 15分 北里研究所前下車
- B 【広尾駅】** (地下鉄日比谷線)
天現寺橋方 (出口1、2番) 下車 徒歩 10分
- C 【恵比寿駅】** (JR・地下鉄日比谷線)
東口下車 徒歩 15分または都バス「田 87」系統 田町駅行 7分 北里研究所前下車
- D 【田町駅】** (JR)、三田駅 (都営地下鉄浅草線・三田線)
三田口下車 都バス「田 87」系統 渋谷駅行 15分 北里研究所前下車
- E 【白金高輪駅】** (地下鉄南北線・三田線) 恵比寿方面 下車徒歩 10分

